

長野県生涯学習推進センター

生涯
学習

NAGANO

2021 Autumn

No. 69

- ◆刊行にあたって
- ◆開催講座報告
- ◆これからの講座のご紹介
- ◆第2回公民館活動アワード受賞団体を紹介します
- ◆キラリ！地域で活躍する公民館【千曲市戸倉公民館】
- ◆お知らせ 令和2年度研修講座 DVD貸し出し中！



生涯学習のマスコット
“マナビイ”

刊行にあたって

日頃より長野県生涯学習推進センター（以下：センター）の運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年2月4日に開催したセンター講座「子どもの貧困問題と対策」で講師を務めていただいた湯浅誠さんは、コロナ禍でも広がりつつある子ども食堂の取組に関わり、次のようなお話をしてくださいました。

「子ども食堂とは、子どもを真ん中に置いた多世代が交流できる地域の居場所です。それでは地域の自治会とはどのように異なるのか。それは『役職』と『役割』の違いです。本来の意味での『自治会』は『役割』であったはずですが、今大抵の自治会は『役職』としてとらえられています。これに対して子ども食堂は地域に必要な『役割』ととらえた人たちが広げてきました。これからの時代に大切なことは、地域や社会に必要なことを私たち一人ひとりが『役割』ととらえて考え行動に移していくことです。」

コロナ禍に加えて、気候変動により多発する自然災害など、最近の私たちの暮らしは様々な災厄とともにあります。こういう災厄のような困難のときは、暮らしを送る上での課題も顕在化します。

センターでは私たちの暮らしを取り巻く現代的な課題について、地域づくりや教育力の視点から取り上げるとともに、そういう課題の取組を支える方たちの力量形成を支える講座を開催しています。また昨年来、ほとんどの講座をオンラインと対面を併用して開催することで、遠方やご自宅などからの参加もできるような工夫もしています。

地域や社会で必要とされる「役割」を発揮することができるための引き出しを蓄える機会として、これからもセンター講座へ多くの皆様に参加いただきますことをお願いし、挨拶に代えさせていただきます。



所長 木下 巨一

所員も奮闘中！👉

オンライン受講可能な講座が増えています。

新型コロナウイルスの感染状況により、今年もいくつかの講座が完全オンラインでの開催となりました。

今年は、単なる開催形式の変更だけではなく、オンライン上で行われる参加者同士のグループディスカッションや、講座中に受講者の意見が瞬時に反映されるなど、オンラインならではの仕組みを活用した学びを講師の先生方と共に所員も奮闘しながらお届けしています。また、オンラインでの開催をすることで、当センターから離れた場所にお住まいの県民の皆さんのご参加も増えました。

これからも対面の良さ、オンラインの良さをそれぞれ取り入れながら、様々な学びの機会を受講者の皆さんと共に作っていきたくて考えております。今後の生涯学習推進センターの講座にぜひご期待ください。



「オンラインはちょっと心配…」と躊躇される皆様もぜひ挑戦してみてください、受講方法のお問い合わせも大歓迎です！

オンラインから生まれる、新しいスタイルの学びとコミュニケーション



生涯学習推進センターでは、地域課題を講座の中心に、県内外の先進的な事例に学び、各地域での即戦力として活躍できる講座の提供をしています。今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの講座がオンラインでの開催となりましたが、オンライン講座ならではの内容や参加方法も増え、新しいスタイルの学びをご提供できる機会が増えてきました。

開催講座報告 pick up!!

6/29

ネット社会に生きる子ども達の自覚と自律を目指して 地域の教育力向上研修



講師：静岡大学教育学部 准教授 塩田 真吾 氏



Society 5.0、GIGAスクール構想、コロナ禍での新しい学習方法として、子ども達に身近になったネットとの関わり方をどのように教えたらよいか、学ぶことができました。情報モラル教育として大切なのは、トラブル事例の提示だけではなく、問題を「自分のこと」として自覚させ、どのように対応すればよいかを様々な状況で考え続けさせるトレーニングをすること。リスクは1か0かの発想ではなく、「リスクのグラデーション」があるということ。たくさんの実践事例を活用し、参加者同士で話し合うことで理解が一層深まりました。

◆受講者感想◆

- 講義内容もとても分かりやすく、勉強になりました。塩田先生とラインが共同で作られた教材は、今の子ども達の実態に合っているため、ぜひ活用させていただきたいと思いました。
- 情報モラルについて、正論で伝える限界を感じていたのので、新しい考え方がわかり、伝える意欲がわきました。
- ネットのことに限らず、どんなことについても、課題に対しての取り組みや手法が参考になると思いました。

8/24

“ともに生きる”を目指して

手話通訳・要約筆記(字幕)つきの
オンライン (Zoom) 開催

地域の教育力向上研修

演題：「ふくしを学びあう～共に生きる力をどう育むか～」

講師：日本福祉大学 社会福祉学部 教授 原田 正樹 氏

【事例発表Ⅰ】

演題：「地域の課題に対応するコミュニティワーカーとして～共に歩み 共に育つ視点から～」

発表者：社会福祉法人 御代田町社会福祉協議会 総務福祉係 主任 山田 翔太 氏

【事例発表Ⅱ】

演題：「多文化共生事業（日本語教室を通じた外国人と地域住民との交流、外国人児童生徒のキャリア支援活動）」

発表者：飯田市民館 副館長補佐兼学習支援係長 近藤 善彦 氏

【パネルディスカッション】

演題：コロナ禍の福祉教育をどうすすめる？～今だからこそできること～

パネリスト：社会福祉法人 御代田町社会福祉協議会 総務福祉係 主任 山田 翔太 氏

飯田市民館日本語教室支援者、地域日本語教育コーディネーター 大澤 志那子 氏

飯田市民館日本語教室利用者 市川 マリ 氏

コメンテーター：日本福祉大学 社会福祉学部 教授 原田 正樹 氏

コーディネーター：長野県生涯学習推進センター 主任指導主事 栗林 幸治 氏



福祉教育の専門家で、長野県ご出身の原田先生をお招きし、「ふくし」と相互実現や福祉教育における協同実践などについてご講義いただきました。また、事例発表とパネルディスカッションにより、コロナ禍の福祉教育について考えました。

原田先生からは「ボランティアはする側、される側ではなく、お互いがよりよく生きること」といった「相互実現」についてお話があり、新たな発見が多くありました。また、事例発表とパネルディスカッションでは、福祉教育はどれだけ自分事のできるかにかかっていることに気付くよい機会となりました。

また、社会福祉協議会と公民館の連携を進めていくことの利点、一方で連携の難しさについて課題を受講者同士で共有することができました。

◆受講者感想◆

- 福祉×〇〇を実現する事は「難しい」「ハードルが高い」と思っていたのですが、相手方の取り組みを尊重しながら、一緒にやらせてもらうところからスタートさせることに、まずは取り組んでみようと思えました。
- 市川さんの話をお聞きして、公民館の活動を通して、自らを成長させていると感じ、公民館が外国人の居場所作りにつながっていると思いました。

6/27日

地域づくり推進研修

総合型地域スポーツクラブで健康な村づくり

講師：文部科学省委嘱コミュニティ・スクールマイスター 岸裕司氏

木祖村の住民やスポーツ推進員・社会教育委員の皆さんを対象に、総合型地域スポーツクラブを活用した、すべての世代の村民が一体となった「健康な村づくり」についてご講演いただきました。

岸先生からは、千葉県習志野市秋津での実践から見てきた総合型地域スポーツクラブ立ち上げの鍵について熱心にお話しくださり、受講者一人ひとりが、スポーツを通して多世代間交流を進め、「学社融合」や「スポーツの力」、「社会的親」について考え、住民が主体となって課題解決に向かうことの大切さに気付くことができました。



7/1日・7/2日

地域づくり推進研修

【南信：箕輪町】 諏訪・上伊那地区社会教育委員連絡協議会合同研修会

公民館講座からはじまった住民主体のまちづくり

【中信：松本市】 中信地区社会教育委員連絡協議会理事会

イオンモール松本出店とまちづくり

講師：長野県生涯学習推進センター 公民館支援専門員 中田安子

時代の流れに対応した社会教育委員の役割や今後のあり方を学び、社会教育委員の意識の高揚とスキルアップを図るために具体的な事例を通して学ぶことで今後の活動を考えるよい機会となりました。県内2地区で開催して、アンケートからも受講者自ら活動へ生かそうとする前向きな感想が多く聞かれました。



5/20日

地域の教育力向上研修

発達障害のある人は、どのような歩みをして大人になっていくのか ～様々なライフステージにわたる支援を考える～

講師：信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 教授 本田秀夫氏

発達障害の特性や発達障害の人たちの考え方、感じ方や育ち方についてご講演いただきました。本田先生からは「どんな人でも時間をかけて繰り返し量をこなせば、必ずできるようになる」という教育界に見られる「幻想」についてや、「コツコツ」よりも「一発勝負」、「前もって」よりも「ギリギリセーフ」といった「支援の目標」についてお話があり、ハッとさせられる場面も多く、学校や家庭でどのように接していけばよいのかを考えるよい機会となりました。

また、講座の様子をYouTubeでライブ配信及びオンデマンド配信し、たくさんの受講者にご参加いただきました。



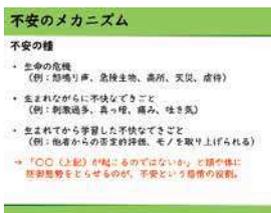
9/21日

地域の教育力向上研修

子どもの不安をケアする

講師：信州大学教育学部 准教授 高橋史氏

子どもが抱える心の問題の深刻さが、さまざまな形で報告されている今、すぐに実践できる子育て支援のための認知行動療法について学びました。幼児期から思春期までの不安や緊張が高い子へのサポートについて、不安のメカニズムを細かく解説した上で、どのように子どもとの関係性を築きながら支援側がケアしていくか、プロセスやアプローチの方法に関して具体例をもとに話をいただき、受講者からはわかりやすかったと好評でした。また画面の二次元コードを読み取る方法で受講者の意見がライブで反映される、参加型の講座としても盛り上がりました。



受講者の感想はホームページをご覧ください

これからの講座のご紹介

R3/11/20(土)

どんなときも自分らしく生きる幸せ ～不思議なパン屋の哲学を通して～

講座内容：ベストセラー『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』の著者を迎え、楽しい時間もつまらない時間も、経験したことすべて自分のなるような「自分の時間を全部生きる」について考える機会とします。

講演：菌とのかかわりから考える共生の社会づくり

講師：野生の酵母で醸す
パン、地ビール&カフェ「タルマーリー」
オーナーシェフ 渡邊 格 氏

R3/11/26(金)

公民館の現代的役割を考える

講座内容：少子高齢化や豪雨災害の増加など、新たな課題が取り巻く現代の地域社会における、これからの公民館の役割とは何かを考えます。

講師：日本公民館学会

会長 上田 幸夫 氏

事例発表 松本市入山辺公民館

塩尻市広丘公民館原新田分館

講座の報告とこれからの開催予定の内容についてご紹介いたします。

センター唯一の
連続講座ご紹介

連続講座 「地域づくりの支え手入門講座」

第1回 6/23(木) 生涯学習推進センターにて開催

初回講座では(株)エンパブリック代表の広石拓司さんを講師に迎えた「地域づくりの支え手の役割」についての講義と、現地研修のコーディネーターを務めていただく4人の皆さんと講師による「支え手が語る地域の魅力と活動」についてのパネルディスカッションを行い、講座のねらいや、現地研修を行う地域や取組について学びました。



第2回 7/14(木) 栄村にて開催



栄村小滝区では、2011年3月12日に発生した長野県北部地震で甚大な被害を受けたことをきっかけとした復興の取組について、小滝区に住まう4人の方たちのお話から学びました。地域の方たちのお話、地域の方たちに案内していただいた地域めぐり、振り返りの会場となったブナ林など、小滝を肌で感じる事ができた、とても有意義な講座でした。

第3回 9/8(木) オンライン開催

上田地域通貨「蚕都くらぶ・ま〜ゆ」は、新型コロナウイルス感染拡大のため、残念ながらオンラインの講座となりましたが、ま〜ゆの歴史や思い、活動の実際について紹介したドキュメンタリー映画「もうひとつの明日へ」の視聴と、8人の会員の皆さんのリレートーク、会員と参加者とのグループに分かれた話し合いを通して、「助け合い、つながる暮らしをつくる」ことが本当の意味での豊かな暮らしであるということを知りました。



第4・5・6回について

下半期の講座は次のようなテーマで開催します。

12/1(木) 第4回講座は「子どもと地域」をテーマとし、伊那市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターの新美亮介さんをコーディネーターに、子どもを真ん中に置いた地域づくりの取組から学びます。

R4/1/29(土) 第5回講座は「女性・若者と地域」をテーマとし、飯田市南信濃公民館主事の宮田浩司さんをコーディネーターに、少子高齢人口減少の進む南信濃地区で若者たちや女性たちによる地域活性の取組について学びます。

R4/2/26(土) 第6回講座はここまでの講座の振り返りとし、各回の講座参加者から一人ずつ代表して講座の概要と学んだことについて報告していただき、(一社)つながりのデザイン代表の船木成記さんを講師に迎え、受講者による振り返りに対して、支え手の役割について意味づけしていただきます。この日の午後は、令和3年度長野県公民館活動アワードを受賞した団体の活動報告会にも参加できます。

講座の様子はYouTube動画で視聴することもできます。講座について関心のある方は、生涯学習推進センターにお問い合わせください。

第2回 公民館活動アワード

受賞団体を
紹介します

令和3年2月27日長野県生涯学習推進センターにて、令和2年度長野県公民館活動アワード・フォーラムが開催されました。

対象は公民館が主催する活動だけでなく、公民館が支え役となっている住民の学習交流活動や、公民館活動がきっかけとなって始まった活動など対象が幅広いことが特徴で、以下の5団体が受賞されました。

300年後に小滝を引き継ぐ



小滝区 [栄村]

2011年3月に発生した長野県北部地震により、甚大な被害が及んだ栄村小滝では、「あきらめない積極的な発想による、暮らしやすい環境整備」「地域資源の見直しと活用」「集落以外の人々との交流活動」を計画の柱に、集落全住民による小滝復興プロジェクトチームが作られ活動している。

10年が経過した現在も活動は多岐にわたり、近年若い世代の移住者も増え、栄村小滝の魅力に住みみずから育てている。

旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト活動

旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト [須坂市]

2009年に設立した地域の課題を地域に住まう自分たちで解決することを目的としたボランティア団体。それぞれの課題別プロジェクトに各自が個人の意思で関わり、課題が解決すると解散し、新たな課題のチームが生まれていく、というスタイルで動いている。現在は、「朝市売店チーム」、「道路活用チーム」、「松川河川敷チーム」、「農地活用チーム」、「プラザ食堂班」などのチームが活動中。



住んでみたい・訪れてみたい入山辺を目指す住民主体の地域づくり



入山辺の将来ビジョンを考える会 [松本市]

地域住民によるまちづくりの学習会の中で生まれた「豊かな自然を生かして、住んでみたい、訪れてみたい、入山辺にしていく」という基本理念のもと、2011年に誕生。「豊かな自然を守る」「地区内外に入山辺の魅力を発信する」「人と人をつなぎ助け合いと絆を深める」「昔からの文化や風土を継承していく」という4つの目的を達成するために、グループに分かれ活動に取組んでおり、地域での生きがいや、仲間づくりが行われている。

多文化共生事業 (日本語教室を通じた外国人と地域住民との交流、外国人児童生徒のキャリア支援活動)

飯田市公民館 [飯田市]

残留孤児・婦人となった人たちが地域で平和に暮らしているのかをテーマとしたことがきっかけで、日本語学習を柱とした多文化共生活動「わいわいサロン」が誕生し、現在では10か国以上の外国人が学んでいる。単なる語学の習得だけでなく、地域社会の一翼を担う住民としての真の多文化共生社会の実現を目指し、「多文化共生」「日本語教室」「支える人材の育成」「外国人生徒のキャリア支援」を柱に活動している。



リンゴ狩り (総取り) でつながろう



二木地区公民館 [安曇野市]

「地区公民館行事への参加者の減少」「事業のマンネリ化」「新旧住民の交流が不十分であること」という課題の解決を、地元の名産であるリンゴを活用し、「摘み取り」「栽培農家の話を聞く」「味わいながら交流する」の3つの活動からなる「リンゴ狩り」行事を企画開催、活動を通して住民に交流が生まれる中で様々な広がりが生まれ、地区のコミュニティが根付いている。

キラリ!

地域で活躍する公民館 [千曲市] 戸倉公民館

戸倉の宝物
岡本太郎氏作「無籍動物」



安西 治夫 館長
(1年目)

信州戸倉上山田温泉は、湯量豊富でかつては全国でも有数の温泉として栄え、温泉資料館にはそのあゆみが残されています。また、岡本太郎さんの無籍動物は立体造形物として地元の宝物となっています。今回は、千曲市戸倉公民館の安西館長と中村主事をご紹介します。



中村 彰男 主事
(5年目)

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染が広がる中、市内の公共施設はすべて閉鎖となり、戸倉公民館でも主要な行事である運動会をはじめ、各種講座も中止を余儀なくされました。そんなコロナ禍でも、何とかできることはないかと検討し思いついたのが、密を避けながら安全に多世代が参加できる野外ゲームでした。そんな折、やはり子どもたちとのレクリエーション活動ができなくて悩んでいた、千曲市社会福祉協議会と協働して実施しました。

チラシは全戸配布し、小学校、保育園、幼稚園にも配布し多世代にわたっての参加を募りました。また、分館役員や学生のボランティアも募りました。参加者からは「久々に屋外で楽しめてよかった」「久々に家族と笑顔になれた」の他、「密になっているのではないかな」などの課題もありましたが、実施できたことはよかったです。

今年度は、「敬老写真撮り事業」として80歳の方々に集まっていただき、記念写真を撮ったあと地元の中学

生がインタビューし、それを壁新聞にして残す事業を行いました。高齢者と中学生の良い交流の場となって「中学生と話ができてうれしかった」と喜ばれています。

他にも、「戸倉上山田温泉を楽しもう」と男性参加者の裾野が広がることを期待して、露天風呂に入ったり、登録有形文化財の客室を有するホテルの見学などをするウォーキングや、長寿社会開発センターの会議の分科会からの繋がり、参加者自身がレコードを持参して鑑賞し合う「音楽カフェ」、社会福祉協議会の身障者の方が所属するチームのつながりから始まった「車いすツインバスケット」などの事業が開催できています。

公民館の役割は、「地域の人が集まる場、つどう・学ぶ・つながりがしっかり機能する」「誰もがもっているポテンシャルを引き出す」「地域の文化・歴史やお祭り等もまんべんなく次世代に繋いでいく」という館長さんの力強い言葉がありました。



敬老写真撮りと中学生インタビューの様子



イベントで開催した無籍動物のぬり絵の展示



地元社協と共催した車いすツインバスケットの様子

館長さん主事さん共に地域に住む住民を大切に思い、繋がりを大事に活かし、行動力のあるお二人でパワーをいただきました。 公民館支援専門員 中田 安子



お知らせ

★令和2年度 研修講座DVDを貸し出し中です。
地域づくり・学校運営にぜひお役立てください。



★令和2年度 研修講座DVDをピックアップしています。

子育て支援に関する講座 C



R2-2

講義 「子どもの命を愛しむ（おしむ）・育む、
放課後子ども教室・児童クラブ」

千葉県 元学童保育指導員 元養護教諭 石田 かづ子 氏

養護教諭・学童指導員として経験豊富な講師の先生から、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるような放課後の居場所作りについて学びます。学校とは違う、児童クラブでの子ども達の姿をどうとらえ、理解すれば良いのか、また、保護者との関係をどう築いていけば良いのかを、具体的な事例を通して考えます。

持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方

R2-3 R2-4



講義 「ESD/SDGs が育むつながりと
持続可能な社会」

信州大学学術研究院人文社会科学域教育学系
准教授 安達 仁美 氏

事例発表 「学校・家庭・地域をつなぐ わくわく村」
高山村立高山小学校

事例発表 「学友林の整備を通じた世代間・地域交流」
塩尻市宗賀公民館

地球環境の異変をはじめ、世界には様々な課題が山積しています。これらはひとりひとりが理解して、行動にこなげていく必要があります。

ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方や、具体的な方策であるSDGs（持続可能な開発目標）の内容を学び、これからの学校教育や社会教育の場で、「持続可能な社会」実現のためにできることはなにかを考えます。

防災！一瞬の判断と備え



R2-8

講義 「一瞬の判断と備え～あなたは突発的な自然
災害に対処できますか～」

兵庫県広域防災センター防災教育担当 田中 健一 氏

近年、経験したことのない自然災害が全国各地で発生しています。阪神・淡路大震災の体験をもとに、東京大学と連携し最前線の防災研究をされている講師を招き、日頃から備えておくべきことや、地域での人と人との繋がりの大切さを考えるとともに、演習を通じて学校を避難所に想定した災害時の対応について学ぶことができます。

★学びの達人（長野県生涯学習推進員）

指定の講座を受講し、一定条件を満たした方を「学びの達人」として認定し認定書・マナビィバッジを交付します。受講の都度、マナビィシールを差し上げます。オンラインで受講された方には後日シールを郵送いたしますので、お知らせください。



令和3年度 11月以降の指定講座

- 11/12（金）長野県の子どもの自殺と現状と課題
- 11/20（土）どんなときも自分らしく生きる幸せ
- 11/26（金）公民館の現代的役割を考える

★メール会員募集中!!

センターで開催する講座の案内をメールでお知らせします。詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

長野県生涯学習推進センター

〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘南唐沢 6342-4

TEL) 0263-53-8822 FAX) 0263-53-8825

E-mail) shogaigakushu@pref.nagano.lg.jp

ホームページ

https://www.pref.nagano.lg.jp/shogaigakushu/

■休業日/国民の祝日、土・日曜日 12月29日から翌年1月3日まで



センターへの交通案内

●JR利用

・JR塩尻駅から車で約20分
・JR広丘駅から車で約10分

●高速道利用

・長野ICから塩尻北IC経由約60分
・飯田ICから塩尻IC経由約70分